

第7期宇治市生涯学習審議会 会議録

名称	第7期宇治市生涯学習審議会 第4回審議会						
日時	平成27年12月11日(金)午後3時~5時						
場所	宇治市役所 8階 大会議室						
出席者	委員	○	岩井 浩	○	小宮山 恭子	○	西山 正一
		○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	林 みその
		○	奥西 隆三	○	清水 桂子	○	向山 ひろ子
		×	木村 孝	×	杉本 厚夫	○	森川 知史
		×	切明 友子	○	長積 仁	○	六嶋 由美子
	事務局	○	藤原 千鶴(教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	瀬野 克幸(教育支援センター長)				
		×	富治林 順哉(教育支援課長)				
		○	今庄 真樹(生涯学習課副課長)				
		○	前田 暢(生涯学習課主幹兼生涯スポーツ係長)				
		○	北池 顕子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	野口 里佳(生涯学習課生涯学習係長)				
		○	粕谷 祐次(生涯学習課生涯学習係主任)				
		○	西田 知世(生涯学習課生涯学習係主事)				
傍聴者	1名						

会議要旨は、下記のとおりである。

• 第3回審議会の会議録について

訂正がないことを確認し、ホームページで公開する。 委員了承

1. 報告事項

➤ 平成27年度京都府社会教育研究大会について

(事務局)

平成27年11月27日(金)、みやづ歴史の館にて開催された。当審議会からは、森川委員長(京都府社会教育委員連絡協議会の副会長、講師、ファシリテーターとして)、向山委員長職務代理、岩井委員、内田委員、西山委員、六嶋委員の6名が出席された。

当日は、「『デジタルネットワーク時代のあなたと私』~異世代間の理解のために~」というテーマで森川委員長が講演された。その後は、参加者の世代を考慮しながら7つの分科会に分かれ、同一のテーマについて話し合った。

(委員)

講演の内容について、若い人はインターネットに慣れて、直に話すことが苦手なので、

顔を見て話すことが大事だと伝え続けることが大切だということだった。「今の子は…」と言いがちだが、環境が変われば子どもが変わるのは当たり前。講演は盛り上がった。

(委員)

参加者は講演に集中していた。デジタルネットワークについては、「わからない」か「やってみよう」という意見に二分化し、そこから社会教育委員として何か始めようという話にはならなかった。分科会は人数が多かったので、紹介だけで終わってしまった。

(委員)

本市は全国よりもレベルの高いことをやっていると思った。実行委員会を作って終わりという所が多い中、もっと上のことを考えている。

(委員)

分科会では、若い世代が少数いて、「もっと任せてほしい」と言っていた。地域の長老が予算まで握っていて、変えようにも変えられないという話であった。

(委員)

自治体の規模も様々だったが、司会がうまく取りもって、各々の経験を話された。

(委員長)

インターネット環境によって人の動きが変わっていることを、インターネットがわからない人に伝えたかったが、時間不足だった。

➤ 「人材バンクの展示と体験コーナー」について

平成 27 年 10 月 26 日(月)から 10 月 30 日(金)まで、宇治市役所 1 階市民交流ロビーで「人材バンクの展示と体験コーナー」を開催した。本事業は、人材バンク登録講師と市民の新たな学習機会を生み出すことと、人材バンク制度を広報することを目的としている。今回は 5 組の登録講師が展示・体験を実施し、5 組中 3 組が初参加であった。日替わりで、健康講座、ステンシルのコースター作り、健康体操、スポーツ吹矢、からだ年齢チェックを実施して、5 日間で述べ 66 名が参加した。

➤ 「宇治市子ども読書の日」関連事業イベントの開催について

平成 27 年 11 月 29 日(日)午前 10 時～11 時、中央図書館集会室にて『こども読書ビンゴ』おはなし会」を開催した。当日は幼児から小学校低学年くらいの子どもや保護者約 80 人が参加された。おはなし会では、中央図書館の男性職員 2 名が「読みメン」として登場し、絵本や紙芝居 6 作品の読み聞かせを行った。おはなし会の前後には「ちはや姫」も登場して、参加者と交流した。

なお、本事業は 11 月 1 日から 29 日までの 1 ヶ月間開催していた「こども読書ビンゴ」のフィナーレにあたるもので、当日は 9 つ全てのマスを埋めたビンゴ台紙を持参した 67

人の子どもに、「こども読書ビンゴマスター認定証」を渡した。また、おはなし会の司会進行の中では、認定証をもらった子どもに立ち上がってもらい、参加者全員で拍手を送る場面もあった。ビンゴの参加者数など、事業全体の結果については現在集計中である。

➤ **生涯学習関連事業調査について**

(事務局)

今回の調査では、事業を手法で分類することによって、その性質ごとに現状を抽出することができた。また、課題として、担当者間に「社会還元」の認識の差があることがわかった。今後はそういった認識の差をどのように埋めていくか、どうすれば「社会還元」を意識してもらえるかという視点から、各課に見直しをしてもらおうと考えている。

2. その他

➤ **平成 27 年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について**

(事務局)

平成 28 年 1 月 22 日(金)午後、木津川市加茂町にて開催される。当審議会より、分科会での司会 1 名と書記 1 名を選出したい。司会：小宮山委員、書記：岩井委員となった。

➤ **平成 28 年宇治市成人式について**

平成 28 年 1 月 11 日(月・祝) 宇治市文化センター大ホールにて開催する。対象者は本年 20 歳に達する市内在住者で、昨年度より約 140 人減って、1,881 人となった。

当日は 13 時半開場(受付開始) 14 時から第一部記念式典、14 時 20 分頃より第二部特別企画が行われる。特別企画は 7 月より会議を重ねた 4 人の新成人の実行委員による企画で、当日の司会も全て実行委員が行う。今回の企画は、恩師のビデオレター、ゲストステージ、抽選会を予定している。ゲストステージの出演者は、中央公民館和太鼓サークル「渦」、宇治出身のバンド「DUFF」の 2 組。当審議会からも多くの委員に出席していただきたい。

➤ **宇治市ジュニア文化賞等及び宇治市スポーツ賞について**

(事務局)

今回の表彰は、平成 27 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの成績を対象としている。応募締め切りは来年 1 月 8 日(金)まで。1 月 27 日(水)の選考会で受賞者を決定する。表彰式は平成 28 年 3 月 1 日(火)の市制施行記念日に、宇治市文化センターで開催する。

➤ **第 23 回市民まなびの集い「宇治まなびんぐ 2016」の開催について**

(事務局)

平成 28 年 2 月 6 日(土)・7 日(日)に生涯学習センターで開催する。出展者募集は 11 月 17 日(火)に締め切った。今回は 41 団体・個人が出展する。うち初出展は 4 団体・個人である。コーナー数は 43 ある。出展者のうち、「宇治市生涯学習人材バンク」登録講師は 5 団体・個人で、うち初出展は 1 団体である。本日は概要の配布のみだが、当審議会委員には後日、当日の配置図等を送付する予定である。生涯学習を「社会還元」する大きな

イベントの一つであり、少なくとも 2 日間のいずれかには足を運んでいただき、本審議会での議論のきっかけとしたい。

➤ 第 32 回宇治川マラソン大会について

(事務局)

平成 28 年 2 月 28 日(日) 京都府立山城総合運動公園にて開催する。コースは 5km・10km・ハーフの 3 コース。5km は 10 時 25 分、10km 及びハーフは 10 時 30 分開始。走路は昨年と同じである。部門について、5km は年齢階層・男女別 10 部門、10km は 6 部門、ハーフは 4 部門を設けており、入賞者にメダル等を授与するほか、男子 70 歳以上、女子 60 歳以上の参加者に特別参加賞を授与する。

➤ 平成 27 年度第 3 回子育てサポータースキルアップ講座について

(事務局)

平成 28 年 1 月 29 日(金) 13:30~16:30、久御山町役場にて開催される。

3. 協議事項

➤ 今期の研究テーマについて

(事務局)

今期の研究テーマについて事務局から提案させていただく。

「宇治市教育振興基本計画」(26~33 年度)における 3 つの目標のうち、目標 2「調和のとれた子どもの『育ち』を支える『家庭・地域の教育力』を向上させる」については、第 6 期の報告書にまとめていただいた。今期(第 7 期)は目標 3「一人ひとりの多様な生涯学習活動を『市民の社会還元力』に発展させる」に沿って議論していただければどうか。

今後の進め方について、第 4・5 回は委員の日頃の活動について報告していただきたい。これからも何らかの形で活動発表をしていただける場面を作っていきたい。第 6~8 回は「社会教育の現状について」ということで、第 5 期に見学していない施設、語りつくせなかったこと等を掘り下げて議論していただければと考えている。

第 9~11 回は、それまでの議論を集約して報告書にまとめる前段と考えている。第 9 回で骨子案を出し、第 10~12 回でまとめ、平成 29 年 5 月に教育委員会に報告書を提出する。

第 6 期報告書の中では「生涯学習」がクローズアップされたために、「社会のために何かをする」という意識が薄まっているので、自分だけの学習から一歩踏み出すということが求められている。社会のためにどうするのか、ということ目標 3 に近付いた内容に持っていかばどうか。

(委員長)

目標 3「社会還元」の部分を中心に報告書を作成すればどうかと考えている。当審議会の委員は既に社会的な活動をしているが、これまで各委員の活動についてのまとまった話をお聞きする機会がなかった。そのため、順番に話を聞いてから議論した方が深まるのではないかと考えている。

(事務局)

本日はあらかじめ 2 人の委員に発表をお願いしている。

発表 1 「おもろいやんか木幡」

(委員)

木幡地域青少年健全育成協議会(以下、「木幡青少協」)では、子どもからお年寄りまでの地域の交流とふるさとづくりをねらいに秋祭り「おもろいやんか木幡」を開催している。私が引き継いでからは 4 回目になる。木幡青少協の役員が実行委員会を立ち上げて、地域ぐるみ・地域一体を目標に実施している。教員、中学校の生徒、地域団体(民生委員等)、消防署、警察等に手伝ってもらっている。東宇治高等学校に依頼して、美術部の生徒にパンフレットの表紙を描いてもらっている。

調整には時間がかかるが、皆さんに関わってもらうことで、知らない子どもと大人が話をするとということが、一つの流れになってきている。会計について、単位 PTA に出してもらった模擬店の利益の余った分は皆の儲けではなく、還元しようということで実行委員会が会計を持ち、10 回記念などの開催時に特別会計として使用している。

先日、中学校の校長から、終業式で生徒にお礼を言うチャンスをもらったので挑戦したいと思っている。京都府社会教育研究大会での委員長の講演でもあったように、例えばパソコンでもスマートフォンでも、拒むのは自分、知ること、自分が挑戦することが大切である。以前は荒れていた時期もあったが、最近は生徒が地域の活動を「応援する」立場になる学校になってきている。生徒も地域の人々も、「地域の一員」としてやっていくということである。

(委員長)

このイベントが始まったきっかけは何だったのか。

(委員)

元々あった木幡青少協の活動が停まってしまい、再度立ち上げる時に何かしようということで、祭りを通してふるさとづくりをすることになった。今は PTA が模擬店をやっており、業者を入れないことにしているが、かつては入れようという議論もあった。色々な話が出てきて面白くなりそうだったので「おもろいやんか木幡」という名前になった。地域の企業の協力や、子ども達を動かすことが実現できている。10 年経ち、うまく後継者を作って引き継げたことがよかった。

(委員)

行政からも、体育指導委員(現スポーツ推進委員)がニュースポーツを教えに行っている。

(委員)

今は平安騎馬隊も呼んでいる。秋は人気が高く、来てもらえる時とそうでない時がある。

(委員)

笠取第二小学校も木幡中学校区なので、「おもしろいやんか木幡」に参加している。今日、学校は施錠され、外から入れないようにし、用事のある人は連絡しなければならないなど、閉鎖的な場になりつつある。そんな中、ある面では地域にとって敷居の低い学校でなくてはならない。親子、児童、生徒、卒業生、地域の人等、いろいろな方がこのイベントのために学校に来ているのがすごいと思った。

(委員)

10年間続けて、このイベントがきっかけで新しい何かが生まれたということはあるか。

(委員)

具体的にはない。模擬店をやってくれている育友会・PTAの方々は、終わった時に達成感があると言ってくれる。また、スタートから14年経ち、第1・2回に参加した生徒が親になる時代が来ている。彼らがその子どもと手を繋いで戻って来るようなものを目指す。

(委員)

「おもしろいやんか木幡」の影響で、東宇治中学校区でも何かしなければということで、「おおばくまつり」が始まった。後に「宇治小フェスティバル」も生まれた。

(委員)

今回の参加者数はどうか。今後はどうしていくのか。

(委員)

毎年2,200～2,300人。今年は3,000人となった。来場者に配布するパンフレット3,000部が昼過ぎにはなくなった。

役員が慣れるのに3～4年かかるため、これから何をしようか考えているところである。合理化はしたくない。一つ一つ調整する手間をかけてやっていきたいと考えている。

木幡中学校区のどこでもポスターが貼ってあるような状態で、協力してくれた企業から終了後に電話があるなど、親しみをかけてもらった。どこへ行っても「良かった」と声を掛けてもらった。

(委員長)

面倒がらずに手間をかけることが大切である。上手になっていくと、かえって危ない。

発表2 槇島町体育振興会

(委員)

槇島町体育振興会は昭和47年にスタートした。会長を務めて21年目になる。目的は旧村と新しい住民の交流、槇島のふるさとづくりである。同じ人が参加しているので、新しい人をどう呼び込むかという課題がある。

春はグラウンドゴルフ大会、夏はソフトバレーボール、秋は町民運動会、冬はボウリング大会を開催している。一つの催しにつき役員は3回集まらなければならないため、これ以上は負担になる。私の代になってからは、本部15人で段取りして、それ以外の人たちには遊んでもらうことにしている。団体発足当時は、教頭がプログラムの作成等の仕事をしていたが、学校からの自立を図った。今も校長・教頭・教務主任を始め約15人の教員が参加してくれており、様々な手伝いをしてきている。

私の住んでいる地域は村意識が強く、「あて職」といって一つ引き受けたら複数の役職がついてくる。諸団体が入った実行委員会方式で実施した方がよいのではないかと考えているが、様々な問題がある。

定義は色々あると思うが、スポーツは個人の楽しみ、体育は教育だと私は考えている。活動を通して規範を守ることを教えたい。使ったグラウンドはきれいにして帰る、自転車を並べる、大人は校門の外で煙草を吸う等。また、決め事は言葉ではなく、町内の回覧等の文書で回すようにしている。後継者づくりが課題である。

(委員)

次の担い手や仕掛けについてはどのように考えているか。

(委員)

運動会に出て来る40~50代の地域の方で、活躍しているような人を一本釣りすることを考えている。4回の催しのうち1回でも手伝ってもらえないかと言って協力してもらっている。

(委員)

固定化されたメンバーで回していくのは組織的には良いような気もするが、一本釣りされた人に負担感が起きるのではないか。「ごめんなさい」を許容できるような、緩やかなネットワークはできないのか。

(委員)

村には走りやボウリング等、何かに長けたチャンピオンがいる。そういったチャンピオンを入れて、彼らに任せたらよいのではないかと考えている。人材を見つけるのは難しい。ボランティア等、社会貢献をする者は報酬を当てにしていけないが、そういう人もいるのかもしれない。

(委員)

地域で全く異なる。私の活動する地域では、最低2年~最高4年の任期。顧問がたくさんいる。誰かが抜けると、新しい誰かが入ってくる。

(委員)

なかなか代わってもらえないので、羨ましい。当審議会には各分野のエキスパートが来

第7期宇治市生涯学習審議会 会議録

ておられ、異なる地域の色々な意見が聞ける。自分の活動でも実践したいと考えている。「社会還元」には、個人と団体、それぞれで出来ることがあると思う。

(委員)

20年前にPTA会長をした時は男社会で、女性の会長はほとんどいなかったが、現在は状況が逆転している。しかし地域団体では、女性が活躍できる場があまりないように思う。

(委員)

私の活動する地域では、本部役員は男性ばかりだが、委員は7割方女性である。決められたことはきっちりやる、女性のパワーはすごいと思う。

(委員)

地域性もある。私の活動する地域では女性が体育振興会の会長になった。それでも任期は4年である。そうすると、女性は応援する。役をする順番が決まっているので、宇治市体育振興会連合会の本部役員(三役)になれないことは了承している。

(委員長)

そのような仕組みがわかっているならば、活動も続きやすい。

(委員)

私が宇治市立小学校のPTA会長をやっていた頃は、何か事業をやる時に来てくれるのは校長・教頭・教務主任だけだった。今は餅つきとなればたくさんの教員が来る。

(委員)

それも地域性がある。私の活動する地域では、校長・教頭・教務主任の3人しか来ない。当日は席に座ってもらい、その他のことは委員がやるようにしている。

(委員長)

実践発表をして正解だった。聞いて驚くことがあった。今後も色々な話が聞けたらよい。

(事務局)

次回は、地域とは違った所で人が結ばれている活動を紹介してはどうか。地域を越えて色々な人が集っている「宇治まなびんぐ」、本に結ばれて全市的に活動している「図書館友の会」、NPO法人について等の実践発表をしていただけたらと考えている。

(委員長)

報告をしていただく中で、還元していくことについての話ができればと考えている。

今回の話は地元で人を出会わせ、人が繋がっていく仕組みだった。私は京都の街なかで生まれ育ったため、地域の繋がりが薄かった。家の裏にある中学校は地域の運動会が盛ん

だったが、私は私学に通学していたので参加しておらず、羨ましく思っていた。運動会では地元大人の活躍があり、その場面でしか見られなかった事が話題になり、子ども間に広まるのを見ていた。現在、その学校の運動会はなくなってしまった。都会化の進行で、各地でそういうものがどんどんなくなり、呼び掛けても人が集まらなくなっている。当審議会で話を聞いていると、地域によって違うのだなと思う。人口も減少して、今後はどうなっていくのだろうと思う。

(委員)

東宇治地域で取り組みが盛んなように思うが、何か仕掛けがあるのか。私の住んでいる地域では、地域運動会は持ち回りで義務のようになっている。役員自身がそうなので、リーダーのやる気一つで盛り上がる年もあれば、そうでない年もある。私は地域の子どもの立ち上げメンバーで、夏祭りを 2 回ほどやったが、周囲の住民から「うるさい」「汚い」等の苦情があった。地域の催しで人を集めたらいつも同じ顔ぶれということもある。

(委員)

私の地域には色々な人材がいる。当審議会で教えてもらったことを持ち帰り、自分ではできないので、「どの人にやってもらおうか」と考える。優秀な人がたくさんおり、その人達が活躍してくれることによってうまく回っていく。

集まる人は同じだが、この会のリーダーはこの人という風に、お互い尊重し合っている。集まった時にある程度連絡事項が済むのもメリットの一つだが、高齢化が問題である。

(委員長)

人が育つには時間がかかる。どの地域でも中心になれる人はそれほど多くない。そういった人達を育てるマネージャーがおり、その人がうまく育てている所はうまくいく。単なる役割として順繰りでしかやらない時はうまくいかない。

私は自分が通っていた私立小学校の役員をもう 30 年近くやっている。ほとんどの役員がそうである。結局、そういうものをまとめていける人間はそう数多くないのだと思う。それをどのようにマネジメントするか、その能力が重要だと思う。

(委員)

地域の女性に「出る杭は打たれるから、出過ぎた方がいい」と言われたことがある。

(委員)

「出る」勇気を持てるかということだと思う。

(委員)

決まった所に「これをやってください」という風に回ってくるので、枠組みを決められていて、全然ワクワクしない。その人に自主性も、主体性も、創造性も何もない所に、役割だけ輪番で回ってくるので、何も面白くない。その人が自分の個性等を発揮できるよう

第7期宇治市生涯学習審議会 会議録

な振り幅を残すとか、立候補ではなくても少なからずその気になっている人がやらなければ、自分をエンカレッジすることはなかなか難しい。構成員のメンバー次第になっており、うまくいった時はその気になっている人がやっているけれども、その気になれる仕組みになっていないので、人によって盛り上がったたり盛り上がらなかったりする。

(委員)

その気になれる人をどれだけピックアップできるか。

(委員)

ピックアップすることすら責任になるので、怖がってやらないのだと思う。

(委員)

何かを引き受けることには、絶対に責任が伴う。それを恐れては何もできない。

(委員)

ピックアップする人は、皆から好かれており、リーダーにしても天狗にならないような人でないと続かない。

(委員長)

生涯学習でやってきたことを「社会還元」するためには、そういったことを考えていかなければならない。単に「どの人も還元を」といってもうまくいかない。

(委員)

私の活動する地域では、役員になったら「(苗字)さん」ではなく「(名前)ちゃん」付けで呼ぶ。同じ苗字の人が多いためである。外部出身者は、よそ者だと感じてしまうかもしれない。

(委員)

私の活動する地域でもそうだった。私もよそ者だったが、行事の後には必ず懇親会があり、席を共にしたらすぐ友達になれる。様々なイベントに誘われるようになった。

➤ 最後に

(委員長職務代理)

委員長と事務局から方向性の提案があり、これに沿って議論していけばスムーズに進められるのではないかと思う。

< 次回の会議について >

平成28年2月10日(水)午後2時00分から 生涯学習センターにて